

報告たたき台に対する委員からの主な意見（事務局メモ）

基本となる視点1 現行計画の現状と課題

- ・「アドプト・フォレスト」には説明が必要。（大橋委員）
- ・自然環境の劣化の内容を具体的に説明すべき。（石井委員）

2 新たな計画策定にあたって基本となる視点(1) 持続可能な経済社会システムの構築

- ・農林水産業が成立していくことは、食の安全を守っていくという点からも、環境を考
えていく上で重要な視点であり、是非盛り込んで欲しい。（横山委員）
- ・生物多様性の保全だけでなく、増やすという趣旨も入れるべき。（石井委員）

(3) 府民が主役

- ・「地域社会」と「府民」という言葉が使われているが、地域社会を担うNPO等のメ
ンバーの中には、近隣府県の住民もいるので、配慮して欲しい。（横山委員）

計画の枠組み4 計画の構成主要課題の抽出

- ・環境分野は多岐に渡り、各分野での継続的な取組みが大切であるが、「総花的」と書
くと、その他を切り捨てるような誤解を招きかねない。（横山委員）

目標1 長期的な目標(2) 目指すべき将来像

- ・「環境」の中に、我々自身も含まれていることがわかるような記述にして欲しい。（横
山委員）
- ・将来像にある「新エネルギー都市」のイメージが湧きにくいので、前段で、新エネ
ルギーの製品が活発に使われて暮らしがエコに変わっていくというような説明を加え
るべき。（花嶋委員）
- ・前段の説明で、「持続可能な環境・新エネルギー都市」がビジネスモデルだけでなく、
府民の取組みにより創られるもの、という趣旨が入らないか。（大橋委員）

1 中期的・短期的目標

(2)目標設定に当たっての方針

各主体の取組み目標の明確化

- ・「取組み目標」よりも「行動目標」の方がよいのではないか。(水野委員)

施策展開のあり方

1 参加・行動

- ・「協働」という言葉は一般府民にはわかりにくいのではないか。(藤原委員)
- ・「協働」より「行動」のほうが積極的な意思が感じられてよい。(吉川委員)

環境教育の推進

- ・頭で理解するだけでなく、実践に結びつく教育が必要。(海老瀬委員)
- ・環境教育の推進にあたっては、浮ついた情報を鵜呑みにしないための環境問題を科学的に理解する力を養うことも重要である。(花嶋委員)
- ・パブリックマインドの育み方についても言及できないか。(大橋委員)

環境配慮行動の動機付け

- ・「大阪人気質を活かした手法が効果的であり」との記述は不要ではないか。(吉川委員)

2 4つの基本方向

- ・「生物多様性」は、「健康・魅力」より上の方がよいのではないか。(石井委員)

(1)低炭素

- ・「低炭素」の説明をいれるべき。(花嶋委員、吉川委員)
- ・冒頭の「大阪・関西における・・・」を3段落目に持ってきた方がよい。(水野委員)
- ・最後の「なお、国際的な・・・」は地球温暖化に関する内容なので、ヒートアイランドの記述の前に持ってきた方がよい。(水野委員)

(2)循環

- ・一般廃棄物がワーストの原因は事業系廃棄物にあることがわかる表現にすべき。(大橋委員)

(3)健康・魅力

- ・「魅力」の代わりに、住みやすい街にしていく、マイナスからプラスへ、という意味を持った言葉があればよい。(大橋委員)

(4)生物多様性

- ・高度に市街化した都市部での生物多様性の確保について、とは具体的に何を指しているのかきちんと書くべき。逆にそこまで書かなくとも、都市部を含めた生物多様性の確保という趣旨が書かれていればよい。(大橋委員)
- ・継続的調査の視点、河口や汽水域の記述を追加して欲しい。(石井委員)

3 共通的事項

地域主権・広域連携

- ・河川やフェニックス等での具体的な広域連携の事例を記述すべき。(大橋委員)

環境ビジネスの推進

- ・WIN-WINという言葉はわかりにくい。また、「海外に対し、大阪の事業者のビジネスチャンスを創出」より先に、まず府内や関西圏でのビジネスマッチング等を記述すべきではないか。(濱田委員)
- ・官がWINというのはどうか。英語を使うことにも違和感がある。(石井委員)

(施策展開のあり方の図)

- ・「低炭素」ではなく、「健康・魅力」が真ん中に入った方がよい。(石井委員)
- ・将来像のキーワードの「環境への負荷が少なく、ゆとりと潤いがある」も入れた方がいいのではないか。(海老瀬委員)

計画の効果的な推進

- ・府民等と一緒に取り組んでいる「豊かな環境づくり大阪府民会議」の記述を追加すべき。(藤原委員)
- ・府民参加型システムを是非とも構築して欲しい。多様な市民団体が参加するようなイメージ。(横山委員)